



飯能ロータリークラブ会報



桜の中央公園と天覧山

© photo by Hiroyuki Maejima

よいことのために手を取りあおう

RI会長 フランチェスコ・アレツォ

Unite for Good

第2570地区ガバナー 相原茂吉
第3グループガバナー補佐 高橋和男

クラブ強化と活性化のために行動してください!

第3212例会 2026. 3. 11

—— 水 と 衛 生 月 間 ——

天候 晴 (NO. 62-36)

会長 中里忠夫 幹事 都築敏夫

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 前島君、岩泉君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)973-1661 FAX(042)973-1662

<http://www.hanno-rc.org/>

E-mail hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 中里忠夫会長
- ・ソング 我等の生業
- ・ビジター (川越) 山崎共子様
(入間南) 齋藤良徳様
(入間南) 寺園智樹様
- ・卓話 ウ・ジフン様

度の各委員長には「次年度役員委員長顔合わせ会」のご案内を配付しました。ご確認ください。4月19日、2570地区クラブリーダーシップラーニングセミナー(かつての地区協議会)が開催されます。関係各委員長はご出席をお願い致します。

【会長報告】

ガバナーエレクトの原島生慈さんがステージ3の食道がんで肺炎を併発、入院手続きをされるとのこと。一日も早いご回復を祈っております。先日は水村パストガバナーにお越し頂きまして、島田クラブ戦略計画委員長と私、都築幹事、服部副会長、神田次年度副会長と6名で、2570地区の今後のガバナー指名の状況等、2時間程、いろいろと対談させて頂き、大変勉強になりました。今後ともよろしくお願い致します。

【委員会報告】

◎親睦活動委員会

皆川君

3月25日開催の「飯能日高合同夜間例会」の出欠表をまとめたA3用紙をご確認頂き、

【幹事報告】 伊澤副幹事

本日、第9回理事会議事録、4月のプログラム予定表、次年度理事・役員・委員会構成表、次年度座談会のお知らせ等、配付。次年



訂正があればご記入をお願いします。親睦家族旅行は5月16・17日、箱根～熱海～三島～沼津の旅程で、「米山梅吉記念館」が主なテーマです。飯能駅から大型と中型、バス2台で参ります。熱海「小嵐亭」は全館貸切。2日目は三島「御殿川」うなぎ懐石。岩泉委員が1度行って翌週にも行ったというおすすめのお店です。ご夫人をお誘い頂き、多数のご参加をお待ちしております。よろしくお願いします。

◎チャリティゴルフ大会 小谷野君
飯能商工会議所の主催で来年度の「飯能まつり」への支援を兼ねるゴルフ大会です。6月19日(金)飯能グリーンCC。ショットガン方式でスタート。あまり待たずに表彰式ができる仕組みです。協賛金、賞品を募集していますので、ご参加ご協賛を是非よろしくお願いします。

◎お花見のこと 大野(康)君
飯能市が凹んだ状態ですが、市民の力を借せて立ち直れないかと思い、3月29日午前中、再生復活を果たした「原市場の森」でのお花見を開催します。飯能市再生復活のヒントがあるのではないかと思います。原市場中学校ではアスリートの大野史佳選手による砲丸投げ教室もあります。皆様のご参加をよろしくお願い致します。

【出席報告】MU0・無届欠席2 大野(泰)出席向上委員長

会 員 数		当 日	
全 数	対 象	出席数	出席率
69名	7名	54名	78.26%

【ロータリーの友】 吉田(茂)雑誌委員
3月号、横組P16、RCの相撲同好会が化粧まわしを贈呈した記事。P33、川越で行われた当地区の地区大会の記事。縦組P6「南海トラフ巨大地震を乗り切る」の記事中に「備蓄」について、「難しそう」と思いがちですが、例えばスーパー等で2コ買ったら割引等のセール品があればそれが備蓄のチャンス。普段から買い置きするやり方等が紹介されています。

【SAA報告】 鈴木(康)副SAA

◎ニコニコBOX

- ・ウ・ジフン様、本日は卓話よろしくお願いします。 齋藤良徳様 (入間南)
寺園智樹様 (入間南)
前島米山記念奨学委員長
- ・本日はお世話になります。よろしくお願いします。 申し上げます。 齋藤良徳様、寺園智樹様 (入間南)
- ・原市場の森・桜と砲丸投げフェスティバル
よろしくお願いします。 大野(康)君
本日計6,000円、累計額870,445円。

◎25日例会当番は田中、福地会員です。

【卓 話】

講師紹介 前島米山記念奨学委員長
当地区には奨学生が16名いらっしゃいますが、その中から中里会長と私とで選抜させて頂き、ジフン君をお招きしました。早稲田大学に在籍、上石神井にお住まいです。

目 の 神 經 科 学

米山記念奨学生 韓国

ウ・ジフン様 (入間南RC)



皆様、改めましてこんにちは。入間南RC米山記念奨学生ウ・ジフンと申します。現在、早稲田大学人間科学研究科修士課程(2年)です。本日は僕の専門分野のお話をさせて頂きたいと思っております。よろしくお願いします。

自己紹介を簡単にさせて頂いて、そのあと研究の話にいききたいと思っております。

苗字がウで、名前がジフンになります。ウは韓国では珍しい苗字なので、たまに中国出身だと勘違いされることがありますが、純韓国人でございます。出身は韓国のインチョン(仁川)です。韓国に行かれたことのある方は通ったことがあると思いますが、仁川には仁川国際空港(ICN)という韓国で最大のハブ空港があります。

所属は早稲田大学で、今年の4月から博士課程に進学予定です。趣味は筋トレ。あと、B'zが好きでよくライブに行っています。今朝も筋トレをしてきました。余談ですが、昨日、WBCで稲葉浩志さんが歌ってくれたのですごく嬉しかったです。

専門領域として視線、瞳孔反応、覚醒等に興味があります。

日本に来てから8年経ちます。2018年に来日した時は横浜に6年間住んでいました。横浜というときれいなみなとみらいを想像すると思うのですが、僕は横浜市旭区という、丘が多い、田舎の方に住んでいました。

横浜は韓国の仁川と似ているところが多いのです。仁川も海に面している港湾都市で、横浜ほどではないのですが、結構有名な中華街があったりします。たまに遠足や修学旅行とかで行くことができました。

現在は早稲田大学で研究をしております。左の写真は去年、韓国の国際学会で発表させて頂いた時のもの。たまにほかの企業さんと一緒にコラボして研究したりしています。

僕の研究なのですが、主に人の視線を測って、人が何を考えているかとか人の脳の中を目で見るようなことを研究しております。視線計測は結構前から行われていて、1965年位にアイトラッキングという視線計測機が発明されました。この時、視線を計測するためにはいろんな制約がありました。目薬で目を麻痺させたり、瞬きをしてはいけない等あったのですが、最近では簡易な眼鏡型のものを使ってさまざまなことが測れるようになりました。

その中で一番大きな発展としては、瞳孔反応（瞳孔が大きくなったり小さくなったりする生理現象）が測定可能になったことです。

何故、脳科学で視線を計測するのかと言うと、「目は口ほどにものを言う」という諺がありますが、目は我々の考えなどを反映する指標になります。

例えば、運動制御の観点から考えると、人間南RCの皆さん、結構ゴルフをすることが多いのですが、ゴルフする時にはボールを見たり自分の姿勢を見直したりします。その時に視線を使います。視線によって間隔フィードバックとかターゲットの予測、運動パフォーマンスの予測をすることができます。ボールをちゃんと見ていなかったら成績が落ちたりすることがありますよね。そのことで、ちゃんとボールを見ている人は成績が良いだろうという予測をすることもできたりします。

僕は他の大学で講師をやっているのですが、日常認知の観点から考えると、ちゃんと授業を聴いていない生徒は視線ですぐ判るのです。「あの生徒はレポートの出来がたぶん悪いだろう」と予測することがたまにできたりします。これは非言語的なフィードバックであって、誘目性とか注意の予測をすることができます。視線の特性を把握することで、その人の性格とか個人特性をある程度予測することもできたりします。

その中でも僕が興味があるのがこの2つ、誘目性と注意の予測、また、個人の特性の予測になります。

僕は学部生の時から、この視線計測をずっとやっているのですが、私達がコミュニケーションする時には人の目を見ながら話しますよね。初対面の人の顔を覚える時に顔のどこに視線が集中するのかが気になって、研究することになりました。

これが実際のアイトラッキングです。円が大きい程ずっと見ていたということになります。目や口元を見ていることがここから読み取れます。実際に初対面の人の顔を覚える時、どこを見るかという研究がすでにありまして、西洋の研究になるのですが、人を識別する時は人の目を見る確率が高いことが示唆

されています。

ただ、コミュニケーションする時、西洋と東洋の文化に違いがあるので、日本人で測ったらおそらく違うのではないかということが僕の予測の中であったので、日本人を対象に測ってみました。

実際に測ってみたところ、日本人は目をあまり見ないのです。目よりも鼻の方をよく見るようになります。西洋人と日本人のコミュニケーションには神経科学的に違いがあることが分かりました。

何故かと言いますと、西洋文化は目から情報を収集することが多く、アイコンタクトがデフォルトとされています。東アジア文化では目をずっと見つめられていると不快というような無意識的なものがあります。鼻に視線を置いて周辺視野で情報を収集するのが、東アジアの、西洋文化と違うところです。初対面ですっと目を見つめられていると、「ちょっとこの人怖いな」と思ったりすることがあったりしませんか。

ここで簡単なクイズをやります。出てくる文字のインクの色を答えてください。

色を判断することよりも先に文字の方を答えてしまうことを「ストループ現象」と言います。

文字の色と文字の意味が一致している時には反応速度がすごく速いのですが、不一致の時には文字の方を答えてしまうことがあります。何故かと言うと、文字を読むことが自動処理されていて、色を判断することは認知処理とされているからです。

自動処理の方が認知処理よりも先に処理されるため文字の方を答えてしまうわけです。自動処理はあまり意識しなくても、無意識でも処理することができます。認知処理は意識的に処理しなければいけないので処理速度が遅いのです。

我々が文字を読む時、左から右に行く「横書き」を読むことが多いのですが、「縦書き」においてもこの自動処理が起きるのかどうかを判断したいと思いました。

「横書き」は一般的に教科書や論文などに使われ、「縦書き」は国語の教科書や小説、新聞、文学的雰囲気などを強調する時に使うことが多いです。「縦書き」においてもストループ現象が起きているならば「縦書き」も自動処理されているのだろうということを検証していきました。

やってみたのですが、「縦書き」においてはストループ現象が起きないのです。色の方を皆さんちゃんと答えるのです。何故かと言うと「縦書き」に皆さんあまり慣れていないからだと思われます。ただ、この対象は現在の日本の大学生なのです。加えて、現在の大学生が「縦書き」をどれくらいやっているかを

調べてみた結果、「縦書き」のものをあまり読んだりしないのですね。その影響であまり「縦書き」に慣れていない状況があると考えられます。

僕の中で一番興味がある分野にADHDがあり、今、研究しています。ADHDは神経科学的な病名なのですが、注意欠如や多動によって日常的に障害が起きる方々をそう呼んでいます。

ADHDには3つのタイプ：不注意タイプ、衝動性多動タイプ、混合タイプがあります。

不注意タイプの方は、単純作業においてあまり集中ができなかったり、不注意によってものを忘れてしまったりすることがあります。

衝動性多動タイプは、不注意と真逆に聞かせるかもしれないですが、じっとして居られないとか、逆に何か一つのことに過集中してしまうということがあります。

混合タイプはこれら2つが一緒に起きます。ADHDの半分以上の方がこの混合タイプに属しています。

面白いことに、ADHDの方々は左と右の瞳孔の大きさが違うのですね。何故かと言うと、交感神経の非対称とか、右半球と左半球の非対称によって、瞳孔の大きさが違うとされています。

タイプによっても瞳孔の大きさの非対称が見られるとされています。何故かと言うと、我々の注意とか覚醒を調節する「青斑核（せいはんかく）」というものがあるのですが、この分泌が左右非対称的であるために瞳孔が非対称になると考えられています。

介入方法として僕が考えたのが、「バイオフィードバック」です。この前のオリンピックとかでも選手達は皆、緊張すると思うのですが、自分の心拍数を見て、ちゃんとこれを下げようと思ったりすることがあると思います。それをバイオフィードバックと呼びます。心拍数とか脈拍でバイオフィードバックするのが一般的ですが、最近では瞳孔を使ってバイオフィードバックするという新しい分野が出てきました。

自分で瞳孔を大きくしたり小さくしたりは学習することができるのですが、これを大きくした時には「青斑核」の活動量が上がったり、小さくした時には「青斑核」の活動量が下がったりすることが先行研究ですでに判っています。

ADHDの注意を制御するため、僕の修士研究は、この「瞳孔バイオフィードバック」を使って、実際に注意に影響があるかどうかを検証することが目的でした。しかし、ADHDの方を対象とする前に一般人対象で実験する必要があったので、僕の研究では一般人

対象で行いました。

どんなことをやったかと言うと、注意課題を45回。そのあと、瞳孔系バイオフィードバックをトレーニングして、そのあともう一回、同じ注意課題をやるのです。

2群に分けて実験を実施しました。ちゃんとした自分の瞳孔系をバイオフィードバックする群と、にせもののバイオフィードバックをする群の2つに分けられました。

注意課題はめちゃくちゃつまらないもので、十字でターゲットが3つ出てくるのですが、それを覚えて自分の目で追うような、ちょっと難しい課題になります。1つが30秒位、結構長いものになります。

つまらないので、人の覚醒とか注意とかって落ちるのですね。あまり課題をやりたくないという気持ちが大きくなって、どんどん成績が下がるのです。けれどもバイオフィードバックをすることで成績が維持されるかどうかを検討しました。

実際に、本物のバイオフィードバック群と、にせもののバイオフィードバック群に分けて検討してみました。

やはり学習前は成績にあまり差がないのですが、覚醒が落ちた時にバイオフィードバック群の方が成績が高かったことが分かりました。つまり、瞳孔系を大きくしたり小さくしたりすることで、自分の最適な覚醒水準を保つことができるようになりました。

しかし、今回の研究は一般人対象でしたので、次回はADHD群で再検討する必要があると考えています。

博士課程では、社会還元度が高くて面白い研究をずっとやっていきたいという気持ちが強いです。最近は、ずっと大学に残るか、企業に就職するか迷っているのですが、ずっと面白い研究を続けていきたいと思っています。いろんな大学で講師をやっていたりもするので高等教育にも携わっていきたいと思っています。

最後に、これはあまり面白くない話なのですが、今年から急に外国人に対する奨学金が廃止になってしまって、元々貰える予定が貰えなくなってしまい、ちょっと困っている現状でございます。外国人の研究者に対する支援が断たれてしまうと肩身が狭くなってしまふかなという心配がちょっとあります。このような問題に皆さん関心をもって頂ければ幸いです。

本日は以上になります。有難うございました。

